

第50号
2009. 2

北海道 米麦改良

麦作

良質麦生産の第一歩は融雪促進から
全国麦作共励会表彰者の経営概要

検査

平成20年度北海道農産物検査事業研修会の
概要について

お知らせ

稲作・麦作総合改善研修会開催のご案内
平成20年度米麦生産技術講習会開催中



会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。
<http://www.beibaku.net/>

社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

農産物検査の信頼性確保
を目指して

JA グループ北海道は一丸となって
農産物検査の信頼性確保に努めています

も く じ

麦 作	良質麦生産の第一歩は融雪促進から…………… 1
	全国麦作共励会表彰者の経営概要…………… 4
検 査	平成20年度北海道農産物検査事業研修会の概要について……………15
お 知 ら せ	稲作・麦作総合改善研修会開催のご案内……………16
	平成21年産に向けた良質米・良質小麦安定生産技術講習会（開催中） ……17

麦 作

良質麦生産の第一歩は融雪促進から

上川農業試験場 技術普及部 主査 高松 聡

道央・道北地域では、ここ数年融雪の早い年が続き収量・品質は良好な結果になっているが、融雪の遅れは小麦の生育に悪影響を与える。また、春耕期は様々な作業が重複し、順調に一年のスタートをきるためにも3月末～4月3半旬までに根雪が終わるよう融雪促進に努めることが重要である。

1 融雪促進の効果

(1) 秋まき小麦

根雪終日の早晩は、雪腐病の被害・穂数確保・出穂期に影響を与える。根雪終日が遅れると出穂期が遅れ(図1)、登熟期間が短くなる傾向がある(図2)。根雪終日が4月半

ばを過ぎると収量の低下が大きくなるため、7～10日程度融雪を促進できれば増収に繋がる(図3)。

(2) 春まき小麦

春まき小麦は生育期間が短いため、早播きが多収の第一条件になる。4月下旬までに播種できれば高い収量性が期待できる(図4)。播種期が遅れると栄養生長期が短くなり

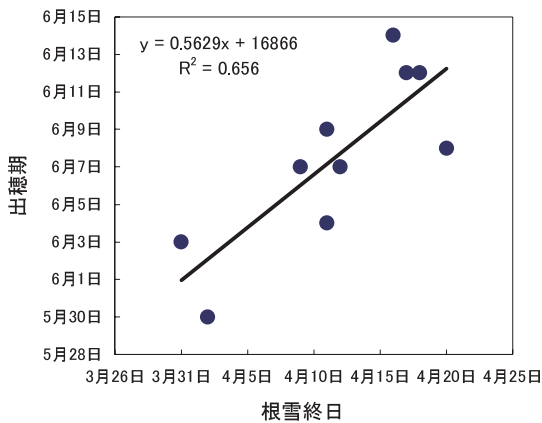


図1 根雪終日と出穂期

(平成11～20年、上川農試作況調査)

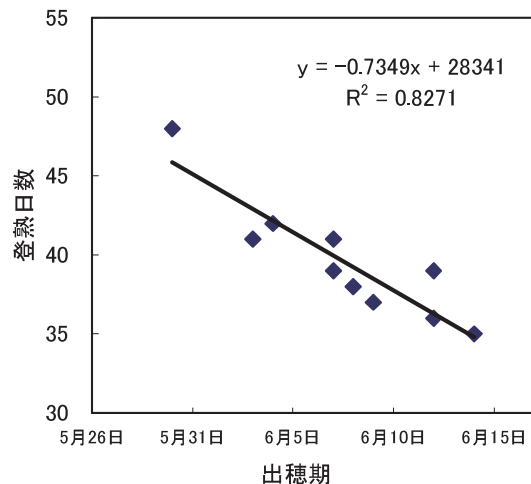


図2 出穂期と登熟日数

(平成11～20年、上川農試作況調査)

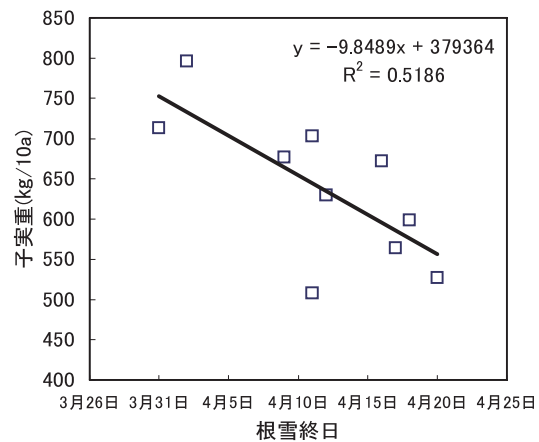


図3 根雪終日と子実重

(平成11～20年、上川農試作況調査)

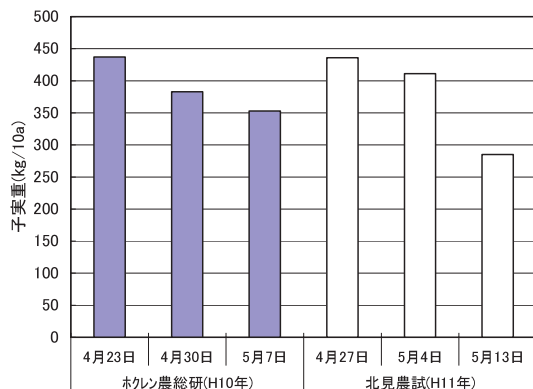


図4 播種期と子実重 (品種：春よ恋)

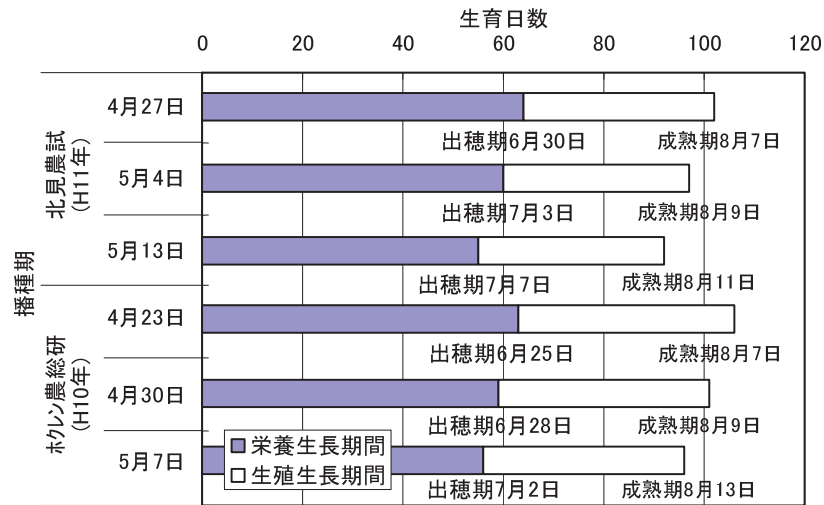


図5 播種期と生育日数 (品種：春よ恋)

表1 播種時期による赤かび病発生程度および DON 濃度の比較 (平成14年、中央農試)

供試品種	播種時期	薬剤散布	出穂期 (月日)	発病穂率 (%)	赤かび粒率 (%)	DON 濃度 (ppb)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
ハルユタカ	4/12まき	無散布	6/09	6.0	1.20	1389	434	42.5
	4/22まき	無散布	6/16	10.3	2.00	1286	420	41.5
	5/1まき	2回散布	6/23	45.0	3.30	5640	182	35.3
春よ恋	4/12まき	無散布	6/09	3.3	0.53	534	404	43.6
	4/22まき	無散布	6/14	4.7	0.67	538	451	44.7
	5/1まき	2回散布	6/22	18.0	1.00	2545	302	38.3

(図5)、根の伸長も不十分のまま生殖生長に入る。生殖生長期間後半は高温・多照な盛夏の時期となるので半ば強制的に成熟期を迎えることになるため、収量・品質が低下する。

また、播種時期が早いほど出穂が早まり赤かび病の発生程度、DON 汚染程度が少なくなる(表1)。4月20日を過ぎた播種ではこれらのリスクが高まる。

初冬まき栽培では、雪は越冬中の春まき小麦を凍害から保護する役目を果たしているので、融雪を早めすぎないように注意する。

2 融雪材の散布

気温が0℃以上になると融雪が始まるが、雪面が黒いと日射吸収率が2倍以上に高まり融雪は促進される。融雪促進効果は散布量・散布方法ばかりでなく散布時期や散布後の気象条件で大きく変化する。

(1) 融雪材の散布効果

融雪材の散布によって、積雪量や温度条件によるが7~10日程度融雪は促進される。融雪の遅れる地域では促進日数が多くなる事例もみられる(表2)。

表2 融雪材の散布効果 (平成15年、上川農試)

区分	消雪日	融雪促進日数	消雪所要日数	日平均減雪深
無散布	4月11日	—	30日	2.3cm/日
散布区	3月27日	15日	15日	4.7cm/日

※融雪材散布日：3月12日 (融雪炭カルー100kg/10a)

(2) 融雪材の散布時期

融雪材の散布適期は、日平均気温が -3°C 以上になり、20cm以上の降雪の確立が少なくなった頃とされている。その時期は、道北地方では3月下旬、網走地方では3月中～下旬、道央地方では3月中旬である。3月末に自然状態で融雪期を迎える地帯は人為的に融雪期を早める必要性は小さい。

融雪材は、薄く均一な散布よりも縞状に濃淡をつけた散布の方が表面積が大きくなり融

雪促進効果が高まる。20cm以上の積雪があった場合は再散布する。

融雪材には、アッシュ類・鉱工業廃棄物・肥料・土壌改良資材・乾土などが利用されるが、資材の特性や効果により選択する(表3)。

転作田では、融雪水によって圃場が滞水しないように雪上心土破碎の施工や畦切りを実施する。また、排水不良などにより起生期追肥が遅れる圃場や作業競合が懸念される場合は、雪上施肥を検討する。

表3 融雪材の特性

資材名	日射 吸収量	効果の 持続性	土壌改 良効果	施用量 (kg/10a)
アッシュ類	○	○	—	40～60
融雪炭カル	○	○	○	60～100
乾土	○～△	○	—	100～150

麦 作

全国麦作共励会 中央表彰式

平成21年2月6日、東京・ホテルルポール麹町（麹町会館）において、平成20年度全国麦作共励会中央表彰式が行われ、農家の部と集団の部の北海道代表として下記の方達が受賞されました。

全国米麦改良協会会長賞
日本農業新聞会長賞

小林 博明 氏
滝上町畑作振興会小麦生産部会



滝上町小麦生産部会：会長と副会長



受賞者と来賓の皆さん

遠別町字旭 小林博明氏の経営概要

1. 遠別町の概要

遠別町は、北海道の北部に位置し（図1）、西は日本海に面しており河岸段丘が随所にみられる。町内を大小5本の河川が日本海に注ぎ、「櫛の歯」状に地形が形成されている。

気候は、日本海を流れる対馬海流の影響を受ける海洋性の気候である。このため、内陸部に比べ年格差および日格差が小さく、農耕期間は穏やかに推移し作物の栽培に適している。降水量は8月下旬にまとまった雨が降りやすい。年間を通して風は強めである。

町の大半を占める河川沿いの沖積地は主に水田として利用されており、粘質で生産力は概して高いが、粘性が強く堅密で排水性がやや劣る。また、泥炭土の多くが日本海沿いに面し、草地および畑地として利用されている。



図1 遠別町の位置

2. 地域農業の概要

(1) 遠別町の農業概要

遠別町は、H15に誕生した3町村による合併農協「JAオロロン」の構成町村である。町では、畜産経営と水稻・転作物複合経営が大半を占めている。

水稲は、もち米が主体で色彩選別機を導入し高品質差別化に早くから取り組み、品質面では全道のトップクラスにある。転作物としては小麦・豆类・てん菜の作付けが多く、園芸作物ではメロン・アスパラガス・ハウレンソウを主品目として作付けされている。畜産

では、生乳の販売が中心で、一部肉牛が導入されている(表2)。

町の農業粗生産額は約23.4億円で、水稲が5.1億円、畑作・園芸で4.2億円、畜産が14.1億円となっている。

表1 専業農家戸数及び規模別農家戸数(遠別町)

農家戸数(戸)					規模別戸数(戸)					1戸当り平均面積
総数	専業	1種兼業	2種兼業	自給的農家	3ha未満	3~5ha	5~10ha	10~30ha	30ha以上	
174	85	53	16	20	39	23	52	30	30	20ha

平成19年 北海道農政事務所

表2 主な作物の作付面積(遠別町)

(ha)

水稲	秋播小麦	春播小麦	大豆	小豆	菜豆	てん菜	馬鈴しょ	牧草	その他	合計
493	175	149	31	56	14	69	26	2,720	167	3,900

平成19年 北海道農政事務所

(2) 地域の麦作の概要

転作物では秋播小麦が主体作物であるが、本作化への意識が低く、経営を支えるまでの実積が上がっていない状況であった。そのため、関係機関一丸となって平成17年より「秋播小麦10俵どり」プロジェクトチームを

立ち上げ増収・高品質化への取り組みが始まった(図2)。

プロジェクトチームの活動により、生産者の意識改革が進み、栽培技術が向上した。町内の10a当たり収量は大きく増加し、それに伴い栽培面積も拡大を続けた(図3)。



図2 「秋播小麦10俵どり」栽培マニュアル

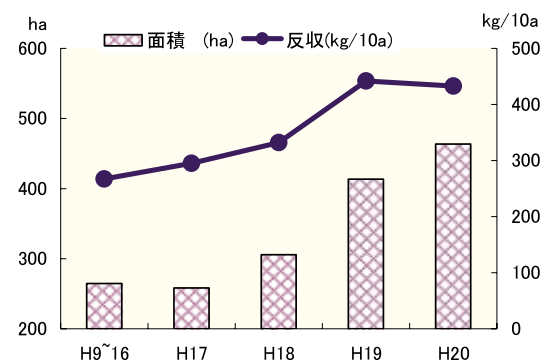


図3 JAオロロンの秋播小麦栽培実績

表3 小林氏の家族構成

続柄	年齢	農業従事日数
経営主	45	270日
配偶者	40	220日

3. 農家の概要

(1) 経営形態・労働力

小林氏は、地域にあってはめずらしい畑作専業経営を行っており、土づくりと適切な輪

作を柱として、過酷な北限地帯にあっても安定した畑作経営を営んでいる（表4）。また、麦類以外のすべての畑作物においても高収益をあげている。

表4 小林氏の栽培面積と作付面積

作物	秋播小麦	春播小麦	てん菜	馬鈴しょ	小豆	菜豆	合計
作付面積 (a)	813	524	460	130	280	293	2,500

(2) 法人への参加

作業受託組織「未来ファーム」の構成員としても、町内の麦作振興に貢献している。

「未来ファーム」は、平成17年に設立され、農業機械の効率的利用と町内の遊休農地発生防止を目的に活動している。平成20年には47haの受託面積となっている（図4）。

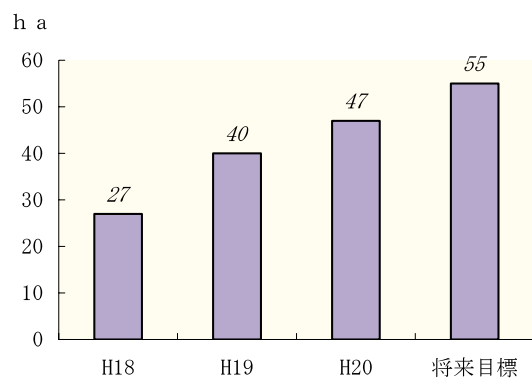


図4 「未来ファーム」の受託面積

4. 麦生産の概要

(1) 土地利用状況

経営する農地はすべて自作地であり、地目は畑（転作助成金が該当しない）となっている。特筆すべきは、近隣酪農家との交換耕作の実施である。5 haの農地を、計画的に6カ年にわたって交換して耕作している。その農地に、小林氏は畑作物を作付けし、酪農家はイネ科牧草を作付けしている。これにより、お互いに優占雑草の駆除や輪作適正化において効果をあげている。

(2) 作付面積、品種構成の推移

作付面積

秋播小麦は、輪作上の主要作物として増加傾向にある（表5）。

さらに、「未来ファーム」として、町内の麦作付け面積を拡大する予定である。

表5 小林氏の麦類の栽培面積

(単位：a)

年度	H16	H17	H18	H19	H20
秋播小麦	446	231	405	530	813
春播小麦（慣行栽培）	503	672	807	770	224
春播小麦（初冬まき）				100	300
経営の内 秋播小麦割合	18%	9%	16%	21%	33%

品種構成

秋播小麦では、ここ数年、めん用の「ホクシン」を栽培している（写真1）。春播小麦では、パン用の「春よ恋」となっている。

また、最近では町内でも新技術とされる「春播小麦の初冬播き栽培」も開始し、良好な成績をあげている。今後の地域での広がりを模索し、付加価値の向上が期待されている。



写真1 秋播小麦「ホクシン」の生育状況
（播種：9/9。撮影：11/5）

(3) 農業機械利用状況

農業用機械施設は、個人でほぼ整備されている（表6）。麦類の作業については、播種から途中の管理作業までは個人で行っている。収穫から運搬までは町内の法人組織に委託しており、乾燥調製はJAオロロンの施設を利用している。

堆肥散布は、近隣酪農家から牛糞堆肥を麦稈と交換して入手し、投入している。堆肥の散布作業は、酪農家に無償委託している。

また、「未来ファーム」の構成員として、耕起・整地や小麦の播種・防除等の作業機を作業受託用に提供しており、所有する機械の効率的利用を図っている。

表6 農業機械利用状況

作業名	使用機械名	形式・規格	台数	稼働期間	稼働日数	備考
(共通作業機)	トラクター	115ps, 65ps	2			個人所有の機械による管理
心土破碎	サブソイラー	3連	1	8月下旬	2日	
耕起	リバースプラウ	4連 (14, 16, 18)	1	9月上旬	1日	
整地	スプリングハロー	2.4m	1	9月上旬	1日	
	アッパーロータリー	2.6m	1	9月上旬	1日	
施肥・播種	グレンドリル	15cm幅、20条	1	9月上旬	1.5日	
鎮圧	鎮圧ローラー	2.4m	1	9月上旬	1日	
融雪剤散布	融雪剤散布機	500 l	1	3月下旬	1日	
追肥	ブロードキャスター	850kg	1	3月下旬～5月上旬	3日	
鎮圧	鎮圧ローラー	2.4m	1	4月上旬～下旬	2日	
防除	自走式スプレイヤー	1,100 l	1	9月、5～7月	7日	
刈取り 脱穀	汎用コンバイン	2.5m幅		7月下旬	2日	町内法人に作業委託
	運搬	ダンプトラック	4 t			
乾燥・調製	乾燥機			7月下旬	1日	JA乾燥施設に委託
麦稈搬出	ロールベアラ			8月中旬	2日	近隣酪農家に委託
堆肥散布	マニユアスプレッタ	12 t		10月上旬	5日	委託

(4) 収量、品質

小林氏は、プロジェクトチームによる栽培技術を導入することにより、徐々に収量・品質が向上するようになった。常時JAの10a当たり平均収量を150kg～200kg上回り、9倍以上の高収量を確保するようになった(図5、表7)。

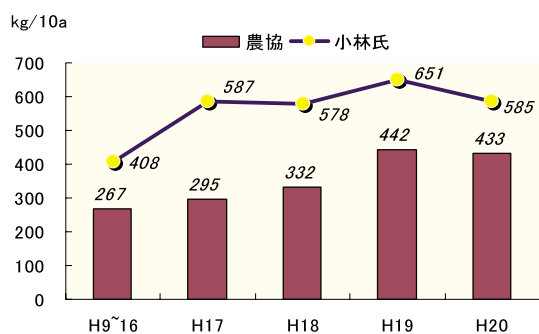


図5 秋播小麦の収量実績

1等麦比率は、つねに95%以上であり、平成20年産においては100%となった。品質では、低タンパク地帯にありながら適正タンパクをクリアし、Aランクをキープしている(図6、表8)。

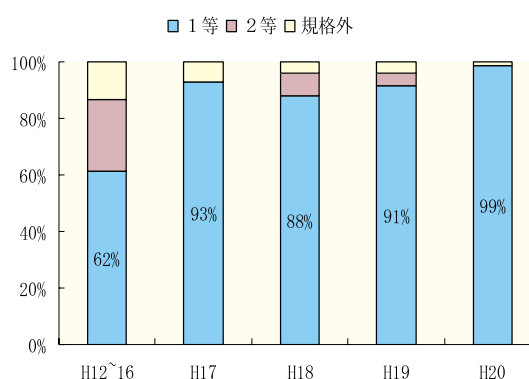


図6 秋播小麦の等級比率(JAオロロン)

表7 小林氏の秋播小麦栽培実績

年産	作付面積	10a当り収量 (kg/10a)			1等麦比率		品質ランク
		小林氏	JA	JA内順位	小林氏	JA	
H17	231a	587	345	4位	95%	93%	A
H18	405a	578	315	1位	95%	88%	A
H19	530a	651	471	8位	98%	91%	A
H20	813a	585	420	6位	100%	99%	A

*JA管内秋播小麦栽培農家数：150戸

表8 小林氏の品質(H20)

項目	容積重	FN	蛋白含量	灰分含量
単位	g/L	sec	%	%
測定値	862	410	10.6	1.54
基準値	840以上	300以上	9.7～11.3	1.6以下

(5) 収量、品質 改善のための努力 土づくり

近隣酪農家の牛糞堆肥を、10 a 当たり 8 t の投入を継続している（写真2）。

農地の交換耕作

近隣酪農家と、5 ha の農地を計画的に 6 年にわたって交換して耕作している。

輪作体系の維持

豆類・根菜類・麦類のローテーションを維持している。

倒伏防止対策

幼穂形成期までに鎮圧ローラー掛けを 2 回実施している（写真3）。

生育に合わせた追肥

葉色測定値に合わせて、細やかに追肥を実施する。

亜リン酸の葉面散布

子実肥大促進等の生育の補完を行う。

(6) コスト低減、労働時間の短縮

堆肥投入

堆肥により地力を向上させ肥料投入量を減肥を実現している。

土壌診断

診断値に合わせて、無駄のない合理的施肥を実施している。

圃場観察

病害虫の早期発見で被害の拡大を防止している。

5. 今後の課題

(1) 次年度作付計画、品質改善項目等

秋播小麦の新品種「きたほなみ」の作付け拡大

パン用の春播小麦の栽培安定化

(2) その他今後の課題

春播小麦初冬播き栽培技術の修得（写真4）

遊休農地対策としての作業受託量の拡大



写真2 投入される堆肥



写真3 鎮圧ローラー掛け



写真4 春播小麦初冬播き（11月12日播種）

滝上町畑作振興会小麦生産部会の経営概要 (小麦生産部会長 原田 隆)

1. 滝上町の概要

滝上町は北海道の北東、網走管内の西部に位置する。周囲を山地に囲まれ、オホーツク気象の直接の影響を受けることは少なく、内陸型の気象で寒暖の差が激しい。

農業、林業、観光が基幹産業で、滝上公園では5月下旬から6月上旬にかけて10haのシバザクラが咲き誇り、市街地を東西に流れる渚滑川の渓谷「錦仙峡」は北海道観光百選に選ばれている。

2. 滝上町の農業

農業は畜産が主体で、総耕地面積3,670haのうち牧草地が7割を占める。総農家戸数67戸中畑作農家は約半数で、1戸あたり経営面積は約40haと大規模である。

経営の中心作物は秋まき小麦で、次いで加工用スイートコーン、てんさい、かぼちゃの



作付が多い(図1)。土壌の性質から馬鈴薯の作付けが難しく、作物数が少ない中で他地域とは異なる輪作体系をとっている。

根雪は早く、融雪が遅いことから耕作期間は短い。排水性の悪い重粘土壌および石れき地が大半を占め、網走管内でも収量性の低い地域である。

表1 作付構成

主要作物名	面積 (ha)	割合 (%)
秋まき小麦	295	39.1
スイートコーン	145	19.3
てんさい	136	18.0
かぼちゃ	44	5.9
しそ	33	4.4
緑肥	71	9.4
その他	30	4.0
合計	755	

注) H20面積

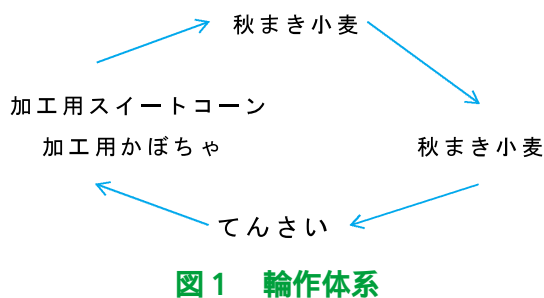


図1 輪作体系

3. 滝上町畑作振興会の概要

振興会（38戸）は小麦、てん菜、青果・果菜、紫蘇・薄荷の4生産部会から構成されている。小麦生産部会は最も会員数が多く、現在26戸で活動している（図2）。

平成17年には振興会内に女性連絡協議会が

設立され、地域住民への畑作物PRおよび地産地消の推進という重要な役割を担っている。

小麦生産（経営主）と生産物のPR（女性）が支え合う「家族一体となった小麦作り」が本部会の大きな特徴である。

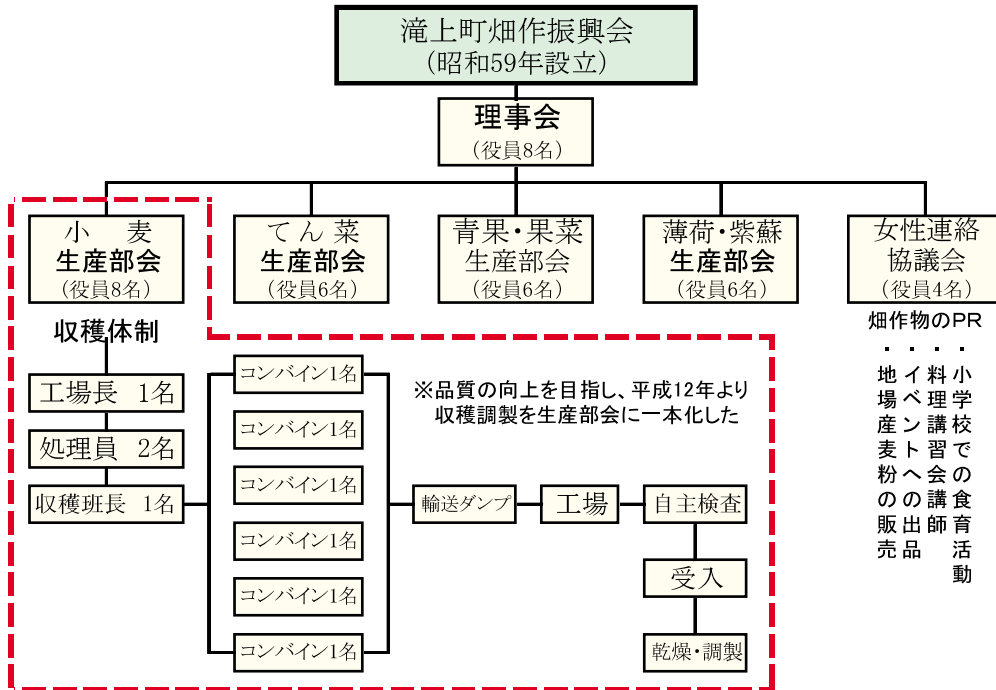


図2 組織図

4. 技術上の特色

収量低迷が続く中、平成14年より普及センター、関係機関の支援を受けて、増収に向けた取り組みを開始した。

低収要因の探り出し、多収部会員の栽培管理を分析することで、滝上町における基本栽培技術を見直した。また、土壌物理性の改善に取り組んだ。

(1) 土づくり

堅密な土壌条件を改善し、根域の拡大を図るため、堆肥の投入、有材心土改良耕施行、収穫後の緑肥作付け等により、物理性の改善に取り組んでいる。



写真1 有材心土改良耕研修会

(2) 土壌条件に合わせたは種時の作業

各ほ場の土壌条件に適したトラクタスピード、ロータリ八口の軸回転数に調整することで、砕土率、は種精度を向上させた。これにより出芽率、穂数を確保している。

(3) 生育状態に応じた施肥量、タイミングの決定

ほ場観察により茎数、生育状態を把握し、分施の量、時期を決定している。

(4) 病害虫適期防除の徹底

ほ場観察を励行し、適期防除に努めている。

5. 品質向上への取り組み

(1) 収穫の一元化

班体制での収穫を平成12年より生産部会に一元化し、乾燥調製体制を整え合理化を進めた。

(2) 成熟期予測システムの導入

平成15年より穂水分測定による成熟期予測システムを導入し、適期収穫、受入水分の平準化によって品質の向上を図った。

(3) 倒伏、雑草に対するペナルティ制度の設置

平成18年には倒伏、雑草に関して独自のペナルティ制度を設けた(役員がほ場を見回り、写真撮影によって判定)。これにより部会員の栽培に対する意識が向上し、より高品質な小麦生産につながっている。



写真2 青空教室での技術研鑽



写真3 役員によるほ場巡回



写真4 収穫風景

6. 生産の推移

平成14年以前の10年間平均製品収量は300kg/10aに満たなかったが、低収要因の分析と滝上町の土壌条件等に合わせた基本技術の

見直しによって、平成15年以降は450kg/10a以上と大幅に増収した。平成18年以降は品質基準を全てクリアし、全量1等Aランクを達成している(図3、図4)。

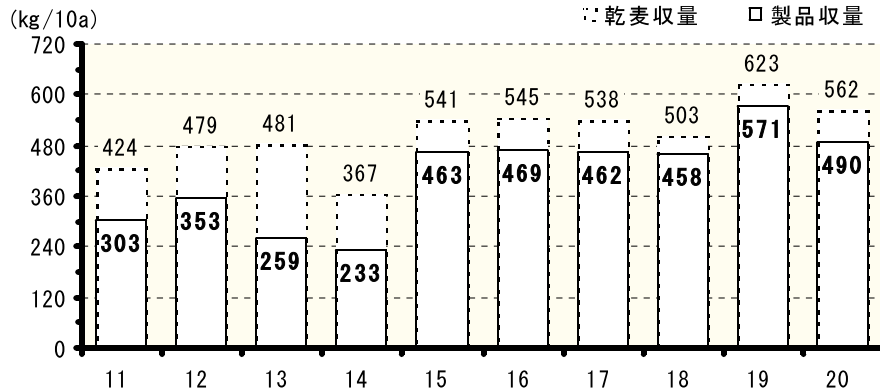


図3 収量の推移

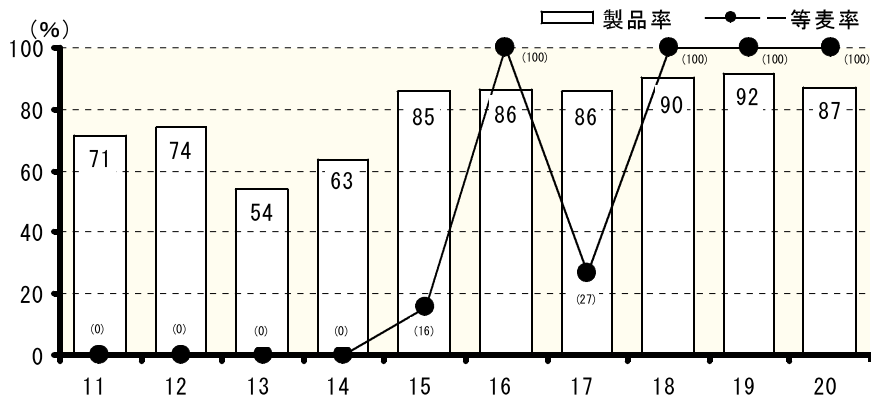


図4 品質の推移

7. コストの低減及び労働生産性向上への取組

町内コントラクターへの堆肥運搬、散布作業委託により、省力・低コスト化を図っている。

また、成熟期予測システムを導入することで収穫計画樹立作業を大きく省力化した。



写真5 コントラクターによる堆肥散布

8 . 地産地消への取組み

女性連絡協議会は会員自身の研修活動はもちろん、地粉を用いた料理講習会講師、小学校との連携による食育活動、地粉販売やうどん、ピザのイベントへの出品等を実施し、地域住民への畑作物PRおよび地産地消の推進という重要な役割を担っている。

「生産部会 = 経営主の活動」が一般的だが、滝上町畑作振興会では女性連絡協議会により、女性の活躍の場が明確になっている。



写真6 小学校での食育活動
(地場産麦粉を使ったパン作り)



写真7 滝上町産「麦粉」の
販売(道の駅)

9 . 今後の課題

今後本格的に導入される新品種「きたほなみ」の当地区にあった栽培技術を確立し、高収量・高品質の小麦生産に努める。

合わせて、地域内での農産物のPRによる地産地消の拡大と、農業の応援団づくりに取り組む。

検 査

「平成20年度 北海道農産物検査事業研修会」

～今年の研修は、検査技術研修会～

農産物検査事業は、平成13年から5ヶ年で民間移行され、平成18年から「検査の実施業務」が完全民営化され3年が経過致しました。

本会は、平成17年よりこの研修会を開催しておりますが、昨年から検査技術の更なる向上と適正で確実な検査を通じて北海道農産物の信頼性を高める目的で鑑定研修を実施致しました。

今年も、全員参加の検査技術研修会として開催しJAグループの農産物検査員166名が参加、日頃の検査技術と適正な品位格付けの重要性について研修致しました。

研修会では、北海道農政事務所の監修による各品目鑑定試料30点、4部門に分かれ鑑定しました。

部門毎の鑑定成績は

<優 秀 賞>

○水稲うるち玄米の部

JA にかっぶ	山田 祥博
JA 北ひびき	細川 重一
JA たきかわ	高橋 佳万

○水稲もち玄米の部

JA 道北なよろ	筒井 尚哉
JA びほろ	石垣 豊
函館育ち広域連	植田 雅俊

○普通小麦の部

JA こしみず	古川 慎也
JA 十勝池田町	上田 宝文
JA めむろ	阿部 忍

○大豆の部

JA つべつ	伊藤 裕康
(株)藤井	藤森 裕司
JA こしみず	脇田 圭一



優秀賞 授与式




鑑定風景

講演では、「表示の重要性について」と題して全農米穀部原材料・安心システム米販売課 絹川課長より、「農産物検査の現状と課題について」「米の表示をめぐる情勢について」「今後の展望などについて」の項目についてご講演を頂きました。特に、全国での検査業務の不適正事例や検査証明書の重要性についての事例説明や直近の農林水産省での要領の変更・新法案の施行情勢について報告がありました。


今後とも、北海道農産物検査技術の維持・向上と、信頼性・公平性の確立に向け研修会を実施してまいります。

ご協力ありがとうございました。



平成20年度

稲作 麦作



総合改善研修会開催のご案内

日時

平成21年
3月9日(月)
13:15より ※受講受付は12:30より

場所

ホテルモントレエーデルホフ札幌
13階「ベルヴェデーレ」
札幌市中央区北2条西1丁目 TEL(011)242-7111

**受講料
無料**

■平成20年度 北海道米麦共励会表彰式————— 13:15～14:00

■優良事例発表————— 14:00～16:00

①「私の良質米安定生産、品質向上のこだわり」
 <発表者> 羽幌町 稲作生産者 村 寿 氏

②「もち米の高品質安定生産への取組みとクリーン農業への挑戦」
 <発表者> 剣淵町 稲作生産者 岡田 浩 幸 氏

③「努力が生んだ北限の麦づくり」
 <発表者> 遠別町 麦作生産者 小林 博 明 氏

④「滝上町における良質小麦生産の取組み」
 <発表者> 滝上町 滝上町畑作振興会 小麦生産部会 会長 原田 隆 氏

■特別講演————— 16:00～17:00

①「きたほなみ」栽培上のポイント (社)北海道米麦改良協会 技監 天野 洋 一

②「ゆめびりか」栽培上のポイント (社)北海道米麦改良協会 技監 山崎 信 弘

■主催／(社)北海道米麦改良協会、北海道、JA北海道中央会、ホクレン ■後援／各地区米麦改良協会 ■事務局／(社)北海道米麦改良協会

受講申込方法 最寄りの市町村米麦改良協会またはJAへお申込み下さい

平成20年度 平成21年産に向けた

良質米・良質小麦安定生産技術講習会開催中

稲作

- ◎良質米安定生産のための栽培技術について
- ◎良質米安定生産のための病害虫防除について
- ◎米をめぐる情勢について

※開催地で内容が変わることがあります。

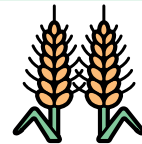


開催日時等		開催場所	
2月25日(水)	※米講習会と合同開催 13:10～	倶知安町	ホテル第一会館
2月26日(木)	※米講習会と合同開催 13:00～	厚真町	厚真町総合福祉センター
3月11日(水)	13:30～	深川市	深川市いきがい文化センター
3月17日(火)	13:30～	岩見沢市	岩見沢平安閣
3月17日(火)	13:30～	北見市	北見農業会館
3月18日(水)	13:30～	札幌市	ガトーキングダムサッポロ
3月18日(水)	13:30～	愛別町	蔵らKURARA多目的ホール
3月19日(木)	13:30～	滝川市	ホテル三浦華園
3月19日(木)	※米講習会と合同開催 13:30～	羽幌町	羽幌町立中央公民館
3月23日(月)	※米講習会と合同開催 13:30～	今金町	JA今金町会議室

麦作

- ◎良質小麦安定生産のための栽培技術について
- ◎良質小麦安定生産のための病害虫防除について
- ◎小麦をめぐる情勢について

※開催地で内容が変わることがあります。



開催日時等		開催場所	
2月23日(月)	13:30～	岩見沢市	北海道グリーンランド ホテル サンプラザ
2月25日(水)	※米講習会と合同開催 15:10～	倶知安町	ホテル第一会館
2月25日(水)	13:30～	北見市	北見芸術文化ホール
2月26日(木)	※米講習会と合同開催 10:00～	厚真町	厚真町総合福祉センター
3月10日(火)	13:00～	音更町	音更町文化センター
3月17日(火)	13:30～	美瑛町	美瑛町民センター
3月19日(木)	※米講習会と合同開催 15:30～	羽幌町	羽幌町立中央公民館
3月23日(月)	※米講習会と合同開催 15:00～	今金町	JA今金町会議室

◆講師:北海道立農業試験場普及指導員他、ホクレン他関係者。 ◆内容:良質米麦生産のノウハウを紹介。

◆受講対象者:米麦作付生産者ならびに受講希望者(受講料無料)。 ◆お問合せ:各地区米麦改良協会

〈主催〉北海道米麦改良協会・ホクレン・各地区米麦改良協会 〈共催〉北海道

良質米麦の出荷目標



一等米 100%
整粒歩合80%以上確保
精米蛋白質含有率6.8%以下
仕上がり水分14.5～15.0%
入れ目1%以上確保
全量種子更新



一等麦 100%
低アミロ麦皆無
DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
赤かび粒混入限度 0.0%
異臭麦皆無
十分な入れ目の確保
全量種子更新



発行所

社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>